『会報69号』目次

活動報告

●三部安紀子…　……　日伊協会（東京）創立80周年記念パーティーに参加して

●寺鍛冶博史…　……　コロナ以来の久々の対面サローネ『オペラ「蝶々夫人」と安田侃の舞台美術』

●菅原明子…… 第10回オンラインサローネ『日本人の知らないアブルッツォ州～その伝統と風景』

イタリア現地レポート

●志田恭一　……　『トリノ』

●エレナ・フラッカーリ　……『ヴェローナのカーニバル』

会員便り

●河野　準……　イタリアン・ポップス 40年ぶりに聴いてみた

●亀井富士人　……　近況報告

連載

●米倉紘一　……　G・D・アンジェリス 再考・殉教まで2

●毛利　晶……　ローマ散策7

事務局より

編集後記

北海道日伊協会 会報

VOL. 69号　2023年5月

事務局よりお知らせ

訃報

当協会が主催しているイタリア語教室の講師をして頂いていた片桐亜古さんがこの4月8日に亡くなられました。協会の運営への多大なご尽力に感謝するとともに、役員一同心よりご冥福をお祈り申し上げます。

寄贈図書のお知らせ

アルテピアッツァ美唄様より、創立30周年を記念して刊行された『誰もが心を広げられる芸術広場』をご寄贈頂きました。「季節や時間の変化によって表情を変えるアルテピアッツァ美唄の風景写真、アルテのあゆみ30年の年表、作家の言葉、NPOの活動コラムなどによって、アルテの『これまで』と『今』を記録した一冊」と紹介されています。ご覧になりたい方は、事務局（conhkd@aig-hokkaido.com）にお申し出ください。なお本書はアルテピアッツァ美唄オンラインショップでも販売中です。

日伊協会の後援事業

「ドナータ・ダンヌンツィオ・ロンバルディ来日レクチャーコンサート2023」
日時：6月10日（土）　14：00開始
会場：安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄アートスペース　（美唄市落合栄町）
一般参加料：1,500円
問合せ先：0126-63-3137

編集後記

新しい体制で『会報』の発行を始めて今回で2回目、お楽しみいただけたでしょうか。第10回オンラインサローネを担当してくれた理事のマリアンナ・チェスパさんは、この4月から立命館大学の講師に採用され赴任することになりました。お住まいはますます遠くなりますが、遠隔地をリアルタイムで結ぶインターネットが普及した今日、これからも変わらず日伊協会のためにご尽力いただけるものと期待しています。

『会報』の次号はこの秋、10月頃に発行、その間は6月と8月にニュースレターLa notiziaを発行する予定です。La notizia6月号への原稿の締め切りは5月25日、メールに添付して lagoalbano@icloud.com 毛利宛にお送り下さい。会員の方々からの投稿をお待ちしています。

A.M.

北海道日伊協会事務局

札幌市中央区大通西14丁目3番地
みふじビル
☎ 090-1306-1974
✉ conhkd@aig-hokkaido.com

日伊協会（東京）創立80周年記念パーティーに参加して

三部安紀子（会長）

トリコローレにライトアップされた大使館

昨年の12月15日に日伊協会（東京）創立80周年記念パーティーがイタリア大使館で行われ、ご招待を受けて久々の大使館を訪れた。午後6時30分からの祝賀会だが6時15分からしか大使館の玄関ドアーはオープンしないという。寒い外での長待ちは辛いので、時間厳守と気をもみながらタクシーで駆け付けた。早すぎて5時40分に到着！門の前にはまだ誰の人影もない！少し散歩でもしようと周りをウロウロ。そして再び大使館の門に戻ると女性がひとりタクシーから降りてこちらに向かってきた。暗がりのなか、初対面だったが勇気を出して言葉を掛けた。「あなたも日伊協会の記念パーティに参加なさるのですか？」彼女には初対面とは思えぬほどお人柄に親近感を覚え、私はとてもはしゃいでお喋り。彼女は奈良の秋篠音楽堂のディレクター、そしてお馴染みの日本トスティ歌曲コンクールの実行委員長で奈良日伊協会の副会長の吉川朋子様でした。

いよいよ門が開き中に入ると名前のチェック。ようやく玄関に辿り着き、入った途端に、今まで4回ほど大使館に伺っているがまた違う雰囲気。大使が変わるたびにお部屋のイメージが変わり、調度品、絵画の数々、装飾品、お料理までイタリアからのコックさん持参でのおもてなし。その都度、違うコックさんのお料理を頂くのも来訪する楽しみの一つ。

日伊協会(東京)島田精一会長と

来客は70人位の集まり。挨拶のセレモニーが始まりウエルカムドリンク片手に、日伊協会の会長の島田精一様のご挨拶。創立80周年という長い歴史をしみじみと伝えて下さった。島田会長は元東京二期会の理事を務められたことがあり、私としてはとても心強い気がして、いろいろお話しすることもでき、満足感いっぱい。そして駐日大使のジャンルイジ・ベネデッティ氏のお祝いの言葉があり、そのあと日本人のカンツォーネ。民謡のリズム感で、益々雰囲気が盛り上がる。つぎは立食パーティー！私はお話したい方々がいらして、高知からのイタリア同好会の会長森岡俊厚様はオペラ歌手ということで、大変興味深い話に夢中になり、テーブルに戻った時はお皿は全て空っぽ!!今回は楽しみにしていた食事も食べそこなって・・・。残念だった。でも様々な方々と出会いがありとても充実したひととき。大使は私のことも気にかけて下さりとても恐縮!!大使に「是非一緒に写真を撮りましょう」と誘って頂いたお陰で、良い思い出の写真が。大使に、是非札幌へ・・・とお声を掛けたら、「必ず行きたい」と仰って！来年の私共の創立50周年記念パーティには是非いらしていただきたいですね!!!

右から：ジャンルイジ・ベネデッティ駐日イタリア大使、三部会長、
森岡イタリア同好会高知会長、寺田大阪日伊協会事務局長、湯浅日伊協会事務局長

ジャンルイジ・ベネデッティ大使と

コロナ以来の久々の対面サローネ
「オペラ『蝶々夫人』と安田侃の舞台美術」

寺鍛冶博史(理事)

参加者は28名、関連する北海道EU協会・北海道スペイン協会・アルテピアッツァ美唄等からもご参加いただいて久々の対面式サローネでした。ここで改めてサローネのハイライトをお楽しみ下さい。以下の写真や文章は当日配布された柴橋氏の資料を基にしています。

TKP札幌駅カンファレンスセンター
2023年3月18日(土)午後

講師紹介

柴橋伴夫氏　(詩人・美術評論家)

近刊
・ミクロコスモスⅡ 美の散歩道一、イタリア・南仏・プロヴァンス・パリ紀行
・ミクロコスモスⅢ 美の散歩道二、オランダ、ベルギー、プラハ紀行など(2023年秋)＊
・ミクロコスモスⅣ 美の散歩道三、スペイン、オーストリア紀行(2023 2024年夏)＊　＊どちらも刊行予定

第一部　オペラ「蝶々夫人」

舞台　明治時代(1890年代)の長崎
作曲　ジャコモ・プッチーニ(イタリア、ルッカ市に記念館あり)
影響　海軍士官ピエール・ロチ「お菊さん」を歌劇化、19世紀のジャポニズム
　　原作　米国作家ジョン・ロング
　　1898年「蝶々夫人」を舞台化
問題点　日本人の描き方に限界あり、植民地主義と女性蔑視

上演
・イタリア　ミラノスカラ座で1904年に初演、駐伊大使大山夫人から情報収集
・イタリア　トッレ・デル・ラーゴで1930年来毎年7～8月にプッチーニ音楽祭
・札幌　hitaruにて2021年2月、北海道二期会・hitaru との共催で開催され大成功
・アルテピアッツァ25周年記念コンサートに、プッチーニ・フェスティバル蝶々夫人役のドナータ・ダンヌンツィオ・ロンバルディさん出演。(YouTubeで動画あり、2017年10月)
・2001年8月東京文化会館にて、安田侃氏が舞台美術を手掛けたオペラ「蝶々夫人」を日本で初公演。

第二部　安田侃の舞台美術

●彫刻家として
　美唄市出身の氏は1970年、25歳で渡伊。ローマ・アカデミア美術学校で学び、以後、大理石の産地のピエトラサンタにアトリエを構え、大理石とブロンズによる彫刻の創作活動を続けている。(ARTE PIAZZA BIBAIのパンフレットを資料として使用)

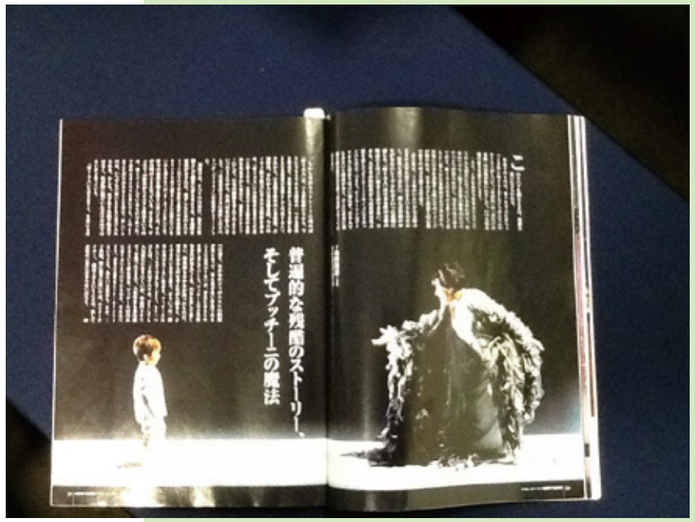
●舞台美術へのデビュー
　プッチーニ財団が新機軸として氏にオペラ「蝶々夫人」の舞台美術を依頼。氏の舞台美術は2000年のプッチーニ・フェスティバルで上演され、2001年の日本上演に繋がってゆく。

●コンセプト
　氏のコンセプトは、虚飾は不要で只々大河の様に流れる音に自由の翼を付与させれば良いというもの。ジャポニズムにも一切重ねず、精神世界、愛と死をしっかり支えようとした。その為に氏が自らの知と美を注ぎ込んだ幾つかの抽象彫刻(「意心帰(いしんき)」(卵の様な形の彫刻、大雨による土石流の犠牲となった子供の慰霊碑)、「翔生」、「天聖」、「天モク」)は世界中に拡がった。

●空間
　氏の舞台美術の空間は禅のような厳粛な雰囲気が立ち込める。彫刻たちが幽玄なる宇宙に置かれた石となり、目に見えない神仏との約束を意味する言葉「幽契」と「天聖」「天モク」が垂直に立つ聖なる場で、愛する我が子のために蝶々さんは命を捧げ、名誉を守り、犠牲的愛の崇高さを見る人の心に響く神秘的な時間と空間を安田侃氏の彫刻が開示する。
(Mostly Classic 2005年2月号 柴橋氏の記事を資料として使用)

第三部　懇親会

北海道日伊協会の三部会長と北海道スペイン協会の南会長からご挨拶。
総合司会　米倉副会長



第10回オンラインサローネ『日本人の知らないアブルッツォ州～その伝統と風景』

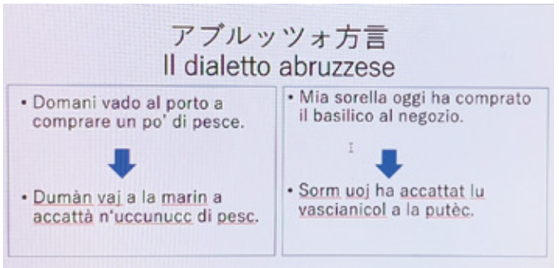
菅原明子（理事）

第10回オンラインサローネが、2月21日に行われました。講師のマリアンナ・チェスパさんが、帰省中のオルトーナからライブ配信し、アブルッツォ州の豊かな自然、地方ならではの景観、脈々と流れる伝統等を説明しました。（受講19名。うち一般6名）

【位置】アブルッツォ州（州都：ラクイラ）は、アドリア海に面した中部イタリアに位置している。ローマまでは車で3時間。バスが30分毎に運行している。アペニン山脈越えをする電車は5時間程かかるのでお勧めできない。

【歴史】中世にはシチリア王国（次いでナポリ王国）の統治下にあったので、歴史的・文化的に南イタリアの影響を強く受けている。1964年以前、アブルッツォ州とモリーゼ州は一つだった。そのため昔の文献ではAbruzzi（Abruzzoの複数形）あるいはAbruzzi e Moliseと表記されている。

【著名な出身者】作曲家F・Pトスティや、彼の作品に影響を与えた詩人G・ダンヌンツィオがいる。オルトーナにあるトスティ劇場で2年毎にコンクールが開かれ、奈良の日本トスティ協会が選出する日本人も参加する。毎年8月末に行われる“トスティナイト”では、1920年代を再現した歌や踊りLa Maggiolataが披露される。



【方言】アブルッツォ方言は、現代イタリア語のなまりと言うには違いが大きい。特徴として単語も異なっており、どちらかと言うとナポリ方言やプーリア方言に近い言語である。所有形容詞が名詞のあとに配置されるなど文法的な違いもある。マリアンナさんも子供の頃、祖父母の話が親の通訳なしには理解できなかった経験があるという。

【見どころ①海岸線】沿岸には、この地方特有のトラボッコTraboccoと呼ばれる伝統的な漁の仕掛け小屋が点在している。最近ここを改装したレストランが増えており、予約が取れない程の人気だ。また、海岸線を走るサイクリングロードLa Via verdeが整備され、自転車好きが集まるスポットになっている。どちらもテレビでたびたび紹介され、全国的にアブルッツォへの注目度が高まっている。

【見どころ②国立公園】アペニン山脈とアドリア海のあいだに位置し、丘陵地が広がる州内には、4つの大きな国立公園がある。そのうちの一つ、マジェッラ（Majella）国立公園は、冬には眼下にアドリア海を眺めながらスキーを楽しめる場所として知られている。

【見どころ③お城】ロッカスカレーニャ城（Castello di Roccascalegna）や、映画の舞台として度々登場するロッカ・カラッショ城（Castello di Rocca Calascio）、イタリア王国最後の王が国外逃亡する直前に滞在したアラゴネーゼ城（Castello Aragonese）が有名。ガイドツアーもある。

【見どころ④シベリア鉄道】近年人気を集めているのが、スルモーナ・イゼルニア間を走る蒸気機関車。雪の中を走る様子がシベリアを横断する鉄道に似ている事から、イタリアのシベリア鉄道（La Transiberiana d'Italia）と呼ばれている。アペニン山脈を縦断する風光明媚な鉄道ルートであり、沿線の町では年間をとおしてイベントが開催され、伝統的な文化や音楽・料理等を楽しむことができる。将来的には、ローマからアドリア海に抜ける路線の運航が予定されている。

【名物】イタリアの他の地域では馴染みのない羊肉を使ったアッロスティチーニ（Arrosticini羊の串焼き）や、ギター（chitarra）のように弦を張った道具で作る断面が正方形のパスタ・アッラ・キタッラ（Pasta alla chitarra）はアブルッツォっ子のソウルフード。また、アーモンドの粉を使って焼き上げたパロッツォ（Parrozzo）や、3つの山を模したケーキのトレモンティ（Tre monti）、コンフェッティ（Confetti）アーモンドを砂糖でコーティングした菓子）などもアブルッツォの名物。特にコンフェッティはお祝い事の時に配られ、結婚式には白、男子誕生なら水色、女子誕生ならピンクと、お祝いに応じて色を選ぶのが伝統だ。

〈質疑応答〉

①日本にアブルッツォ料理のお店はありますか？

▼東京・西早稲田に「トラットリア・ダイ・パエザーニ」というお店があります。

②パスタ・アッラ・キタッラは日本でも手に入りますか？

▼東京のイタリア食材専門店にあります。

③イタリアの名門貴族・ファルネーゼ家に嫁いだオーストリア王妃・マルゲリータがアブルッツォでワイン造りに身を捧げたとの事ですが、今でもその畑はありますか？

▼はい。一族が住んだ家も残っています。

「アブルッツォ州の見どころトップ10」のサイトで州内の名所・観光スポットが紹介されています。

https://www.youtube.com/watch?v=00L-JSykDnE